ファン・デ・ナゴヤ 美術展

名古屋市市民文化振興事業積立基金（文化基金）を活用し、1999年から開催している美術展です。
「こんな美術展を実現したい！」という新しいアイデアを募集し、
採択後には進捗報告会をステップアップの場として、企画を実現します。

INFORMATION

【会 場】

名古屋市民ギャラリー矢田

名古屋市東区大幸南一丁目1番10号 カルポート東3F/4F
TEL 052-719-0430

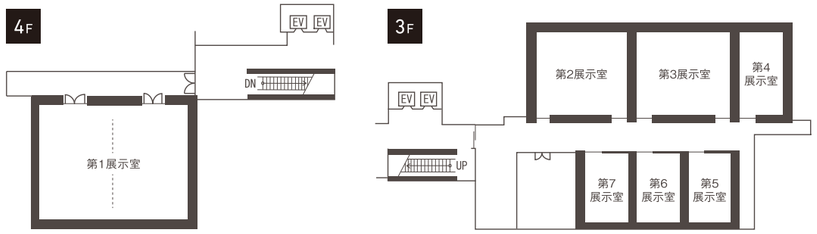


交通アクセス

- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車 1番出口 南へ徒歩5分
- ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分
- 市バス「大幸」下車 徒歩5分（名駅15号系統、東巡回系統）

※駐車場102台は東文化小劇場・東スポーツセンター・東図書館と共用です。
専用駐車場はございません。
※他施設催事により入出庫が込み合う場合がございますのでご注意ください。

名古屋市民ギャラリー矢田 展示室平面図



【問合わせ先】

公益財団法人名古屋市文化振興事業団　TEL 052-249-9385　https://www.bunka758.or.jp/

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

感動を育てる種をまこう。 名古屋市文化基金

あなたの知りたい情報をお届け！
名古屋市文化振興事業団
LINE公式アカウントを友だち追加！

なごや文化情報 デジタルブック

Nagoya, City of Design

名古屋市文化基金事業

次世代キュレーター & アーティストによるアートエキシビション

ファン・デ・ナゴヤ 美術展 2027

Fan De Nagoya
Art Exhibition

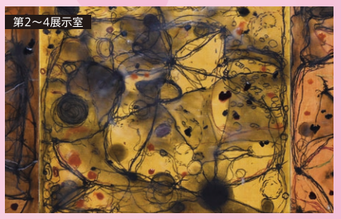
会 期　2027.1.8 [Fri.] ▶ 1.17 [Sun.]　入場無料

会 場　名古屋市民ギャラリー矢田　開館時間 10:00～19:00
※休館日12日(火)
※11日(月・祝)、17日(日)は17:00まで

EXHIBITED WORKS



「包まれた触れ幅に」　写真：松尾 宙人



「崩壊の装飾」



「律動」

主 催　ファン・デ・ナゴヤ美術展2027
「包まれた触れ幅に」「崩壊の装飾」「律動」実行委員会

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

English >

4F

名古屋市民ギャラリー矢田
第1展示室

「包まれた触れ幅に」

企画者 三浦琉聖　　出品作家 三浦琉聖、AHMED MANNAN、峰松沙矢、玉住聖

Artist profile

三浦琉聖 | MIURA RYUTO

2000年岐阜県生まれ。2025年愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画・版画領域修了。美術領域におけるデザインに着目し、印刷物と絵画をはじめとする美術作品との関係を再考している。コンセプチュアルアートの文脈を参照し、展覧会の告知媒体であるフライヤーが作品として成立する可能性を探求するとともに、デザインと美術、絵画と印刷物といった異なる領域を横断しながら作品を制作している。

アハメッド マナン | AHMED MANNAN

2000年大阪府生まれ。2026年東京藝術大学大学院美術研究科油画技法材料第二研究室修了。主に絵画を制作しており、私自身の日常生活における私的体験などをモチーフとしながら、実際に使用していた日用品など、自身の日常における身近な物を制作素材として扱い、私にまつわる様々な素材を横断しながら作品制作を行なっている。

峰松沙矢 | MINEMATSU SAYA

2000年大阪府生まれ。2026年京都市立芸術大学美術研究科修士課程美術専攻油画修了。他者、身体、記憶にまつわる事象と自己を保つ在り様の相互関係から発生した内情と物質への回帰を往来することで視座を昇降させる制作をしている。

玉住聖 | TAMAZUMI HIJIRI

1999年大阪府生まれ。2022年大阪芸術大学芸術学部美術学科油画コース卒業。私は情報過多シンドロームや嘘により、今日も紫色の風船のように実感が不在しています。実感の木にしがみ付く為、機械的な精度で過剰なイメージ。ノイズ。毒。傷。の連鎖を日々の支持体（透明）に貼り付けています。浮遊している魂の定着方法について絵画・彫刻・ノイズ音楽を横断しながら模索しています。



本展覧会〈包まれた触れ幅に〉は、絵画を中心に制作している４人の作家が、個人制作と共同制作を介して、内と外、個と他者のあいだを往還する「現代の包（ゲル）」を模索する企画です。それぞれの絵画作品のほか、ドローイングを施したパーツを郵送し繋ぎ合わせた、移動式住居である巨大なゲルを展示します。私たちが美術を学び始めて間もない頃に開催された「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」をきっかけに、そこで目の当たりにした芸術と社会との関係や個人的な経験は、自身の表現を考える上で重要な契機となりました。2021年のコロナ禍には東京にて同メンバーによる展覧会を開催し、そこから6年を経た2027年、再び4人が集まり、我々の出会いのきっかけや制作の転機となった愛知で展覧会を行います。本展では、異なる場所と時間のなかで形成されてきた個々の実践を、共同制作を介してひとつの空間へと接続する試みです。無造作に放たれた過去と現在を手作業で縫い合わせ、個と共同の新しい在り方を捉え直します。





写真：松尾 宙人

3F

名古屋市民ギャラリー矢田
第2～4展示室

「崩壊の装飾」

企画・出品作家 杉谷遊人

Artist profile

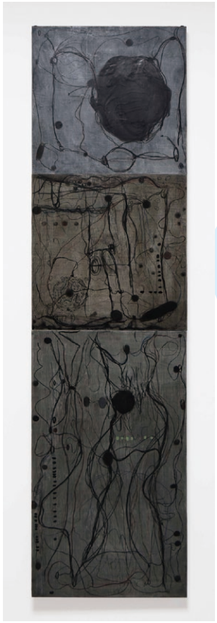
杉谷遊人 | SUGITANI YUTO



1997年三重県生まれ。2022年名古屋造形大学大学院造形研究科修士課程洋画研究領域修了。三重県を拠点に活動。テーブル状に形態が変化する作品を契機に、板を支持体として主に絵画を制作してきた。近年は装飾の造形、機能や性質、絵画との連続性に関心を寄せ、「描くこと」を「作ること」と捉え直しながら新たな展開を模索している。主な展覧会に「群馬青年ビエンナーレ2025」（群馬県立近代美術館／群馬・2025）、「Outside the White Cube: Place to Exchange Any Ideas for the Arts」（Kunst im Hafen e. v. / デュッセルドルフ・2023）、「語源は話す、いくつかの方法」（アートラボあいち／愛知・2022）がある。

この数年、工場の労働で毎日目にしていた家具の傷や、近所の落雷によって傷つき死に瀕した大木、私が住む地域で近いうちに起こると言われている地震のことが、いつも気になっていた。
本展では、崩壊という現象や言葉のうちにある、肯定や否定に回収されない思考を取り出し、そこで駆動する固有の力学を造形の実践を通じて扱う。それは近年、戦争、災害、政治、経済、自然などの状況に結びつけて頻繁に語られる崩壊という現象を、あるものが変形すること、そこから別なものが生じることを可能にする運動として、制作のなかで作り直すものでもある。
芸術というフィールドから離れた生活の場においても、基本的かつ身近な技術である装飾。それは独立した形式を持たないことで、あらゆるものに寄生・感染し、内部から安定した枠組みを蝕む。一方で制作は、物質や形の操作によってイメージを作り、周囲の環境を覆うことで、それ自体ある種の装飾となり得る。装飾がある構築的なパターンの反復によって秩序を生み出し現実を支えるものであるとすれば、むしろ壊れ、破れ、傷といった崩壊の兆し、そこにあるままならなさを条件とする装飾を作りたい。これが本展覧会名称の周辺で考えていることです。
絵画制作という閉鎖的にもなり得る営みを、それでもなお、現実を別のかたちへと造形するひとつの技術と捉えたい。





3F

名古屋市民ギャラリー矢田
第5～7展示室

「律 動」

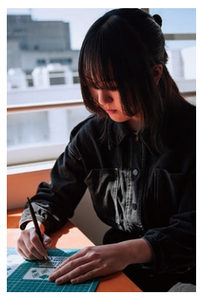
企画・出品作家 小畑咲音

Artist profile

小畑咲音

OBATA SAKINE

2002年京都府に生まれる。2025年大阪芸術大学芸術学部工芸学科ガラス工芸コース卒業。2027年現在、富山ガラス造形研究所研究科在学中。ガラスを素材に、数字や数学的な秩序をもとに制作している。



世界は数学的な秩序によって成り立っている。
身の回りにある形や大きさ、
時間や距離などのあらゆるものは
数字を基盤として成立している。
しかし、私たちは普段の生活において
その数字を意識することはない。

数字をガラスに刻み、組み立てる。
普段は認識していない世界の秩序を、
ガラスという物質として提示する。







関連イベント情報

EVENT 01
「3企画合同ギャラリーツアー」 第2展示室集合
1月9日（土）14:00～15:30
ゲスト：鈴木俊晴（豊田市美術館学芸員）
参加無料　申込不要

EVENT 02
「アーティストトーク」 第2展示室
1月16日（土）16:00～17:30
ゲスト：副田一穂（愛知県美術館学芸員）
参加無料　申込不要

EVENT 03
「ゲルに包まれてクロージングトーク」 第1展示室
1月17日（日）14:00～15:30
参加無料　申込不要

同時開催

- 4F 第1展示室　「包まれた触れ幅に」
- 3F 第2～4展示室「崩壊の装飾」
- 3F 第5～7展示室「律動」